



交通安全の価値を考える



小林 眞

愛知県春日井警察署長等を歴任し、平成28年より「AAKK」専務理事。
「安全運転を習慣とすること、そのための努力を惜しまないこと」を提案している。

第30回

リスク・ホメオスタシス理論について考える

1 リスク・ホメオスタシス理論の概要

リスク・ホメオスタシス理論とは、1982年にカナダの交通心理学者ジェラルド・ワイルドが提唱した考え方。自動車の安全性を高めても、ドライバーは安全になった分だけ利益を求めて危険性の高い運転をするため、結果として事故が発生する確率は一定の範囲内に保たれるとする理論。

たとえば、自動車の安全機能が強化され、これまで時速50キロで走っていたときの事故率（リスク）が低下し、時速60キロで走った時と同じだと判断された場合、ドライバーは利益（時間の短縮）を求めて時速60キロで走るようになる。そのため、どれほど安全機能を強化しても、事故率は変わらないと指摘する。

2 同理論の主旨

リスク・ホメオスタシス理論については、「車の安全機能の強化も道路改

良も交通安全運動も事故の減少に効果はなく、無駄だとする理論」だと説明されることがある。そのために誤解を招き、批判されたようであるが、その本旨には極めて有益で傾聴すべき指摘がある。

簡単に説明すれば、安全機能の強化、道路の改良、そして交通安全運動の効果をより高め、継続的に事故を減少させていくためには、何よりも「ドライバーの意識の変化」が必要なのだとする考え方であり、決して安全機能の進化や交通安全運動を無駄だと冷笑しているものではない。

3 安全機能の効果

安全機能の効果を決めるのは、新しい安全機能を「安全」に使うか、「利益」に使うかというドライバーの判断であり、その人の考え方次第であるとする。

つまり、交通事故を減らし続けるためには、何より安全な交通環境を求めるドライバーの意思が必要であり、そのためには、時間の利益よりも安全性を重視する考え方を持つことが不可欠だと指摘する。

したがって、安全機能の強化や道路

改良のみならず、どのような交通安全対策であっても、ドライバーが許容している危険性のレベルを変える、ドライバーの意識をより安全な状態を求めように変化させる対策でない限り、長期的には事故率が元の水準に戻ると予測している。

4 課題の克服 ～ 誇り

多くのドライバーの安全運転を支えているのは、その人の安全に対する価値観である。安全運転とは他人に対する配慮であり、人としての誠実さである。

そして、その価値観を誇りとして支えているのはその人の仕事であり、家庭である。つまり、誇りを持てる仕事がある人を支え、家庭を支え、安全運転を支えている。

それぞれの会社・事業所が将来に向けて事故を抑止し、社会に貢献する役割を果たしていくためには、社員それぞれが誇りを持ち、誠実であることが尊重される職場、会社・事業所であり続けることが必要なのだ……。

ワイルド氏の理論を私はこのように理解している。